

令和6年度に係る自己点検・評価の報告書

令和7年8月27日
大学経営戦略会議

1. はじめに

本件は、岡山大学内部質保証規則（令和3年岡大規則第19号）に基づき実施した図書館に関する自己点検・評価の結果を報告するものである。

2. 実施体制・手順

図書館では、教学担当理事の下、岡山大学自己点検・評価の実施要領に定める図書館に関する以下の二つの観点について、令和6年度を実施対象とし、令和7年度第1回図書館運営委員会（令和7年6月16日）にて、自己点検・評価を実施した。

観点①「図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されているか」

観点②「学術情報資料の活用について適切な支援が行われているか」

3. 総括

自己点検・評価の結果、観点①は「注意が必要」、観点②は「適切である」となった。

「注意が必要」としたのは、依然として学生1人あたりの図書費が、国立大学の平均値を下回り且つ減少傾向が続いていること、図書及び電子書籍の利用の減少傾向が続いていることによる。改善策として、利用促進広報活動の継続に加え、学生ニーズの把握とそれに基づく選書等の見直しがあげられた。

優れた成果としては、整備した電子ジャーナル等の利用が伸びていることと、令和6年度に採択された「オープンアクセス加速化事業」により、オープンアクセス出版支援を拡大したことがあげられた。転換契約の拡大に加え、Q1ジャーナル投稿論文への支援を新たに実施、令和7年度以降の継続に繋げるなど、優れた成果を上げた。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点での対応済のものを除く。）の対応状況

該当なし。

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

該当なし。

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

該当なし。

7. 点検・評価の結果、「適切であるが注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

図書館で予算配分の工夫等を行ってきたが、図書費の維持は極めて厳しい状況である。現在の図書費が効果的に活用されているかを蔵書構成や利用状況、学生ニーズを分析することとした。具体的には他大学からの資料の取り寄せ状況・学生希望図書・開講授業・アンケート等による学生意向等の情報を収集、分析し資料選定に反映させる。また、資料費の減少と利用件数の連関も勘案し、適切な資料額や活用について見直しを行う。なお、利用促進広報活動は引き続き行う。

8. 点検・評価の結果、確認された優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの

「オープンアクセス加速化事業」も活用して転換契約を拡大するとともに、Q1ジャーナルへのAPC支援も行い、計289報のオープンアクセス出版支援を達成した。盛況のため年度途中で予算不足が生じたが、学長・理事戦略経費の追加支援で、年度内は途切れることなく、支援を継続

した。転換契約とAPC支援については、URAと連携して分析を行い、APC支援制度については、持続可能な予算の指標を設定して令和7年度への継続に繋げた。また、電子ジャーナル等の利用も従前から引き続いて増加傾向にある。

以 上